

緑の党と連携する地域組織

グリーンズ千葉

【結成宣言】

千葉から緑の党を始めよう！

日本に『緑の党 Greens Japan』が誕生しました。世界の緑の党（グローバル・グリーンズ）に励まされて。日本の『緑の人々』に期待されて。2012年夏、ようやく『緑の党 Greens Japan』の誕生です。

「緑の党」の6つの理念
・エコロジー ・社会的公正
・参加民主主義 ・非暴力
・持続可能な社会
・多様性の尊重

私たちは千葉で実現をめざします。待ちに待った緑の党。日本の各地域で、緑の党の仲間たちが活動を始めました。

活動は私たちの権利。主権は国民にあると日本国憲法は定めています。

一人一人の力は小さいけれど、小さい力が集まって大きな理念が実現します。私たちは、千葉から活動を始めます。

3・11の福島原発事故は千葉にも放射能を降らせました。

福島に原発を押しつけてきた千葉で、日本の原発ゼロをめざします。

東北に廃棄物を押しつけて、東京の廃棄物を押しつけられる千葉でごみゼロ社会をめざします。

温暖な気候と豊かな農・漁業の千葉で、地産地消をめざします。

千葉都民と言われる人たちと、新しいふるさと千葉をめざします。

普通の人に参加して、普通の人で創る緑の政党です。政治を二世三世議員に任せただために、利権争いが続いています。

多数決より熟議、行政に頼らない働く議会をつくりま

す。
どの政党も嫌だからと投票にも行かない人たちに、選んでもらえる政党を。

利権も汚職も許さない、いつでもだれでも情報が得られる制度を。

政治を担う責任を、全員参加、みんなで分け合う緑の社会を。

知恵と決意を持って緑の仲間が集まっています。

スロー・スモール・シンプル&スマイル

いじめ・虐待から戦争まで、あらゆる暴力を許さない社会へ。

処理できないゴミと放射能を、だれにも押しつけない社会へ。

だれかが笑うために、だれかが泣く社会は終わりにします。

勝ち負けはスポーツへ。勝っても負けても、みんなで笑える社会をつくりま

す。
地球に生きる全ての人々と生き物たちと、持続可能な地球を護ります。

緑の党は地球を大切にします！緑の党で日本を楽しめます！

緑の党に仲間をたくさん集めます！

緑の党を千葉から元気に始めます！

グリーンズ千葉の規約

(名称)

第1条 この組織の名称を「グリーンズ千葉」とします。

(目的)

第2条 私たちは、千葉県内で市民が主体の緑の政治の実現をめざします。緑の政治とは、グローバルグリーンズ憲章の6つの理念（①エコロジカルな知恵、②社会的公正/正義、③参加民主主義、④非暴力・平和、⑤持続可能性、⑥多様性の尊重）に基づき、緑の党の「緑の社会ビジョン」を実践することです。

(活動及び事業)

第3条 目的の実現のために、次の各号に示す活動及び事業を行います。

- (1) 緑の党 Greens Japan の「緑の社会ビジョン」や「基本政策」についての学習・論議を深め、合意をはかります。
- (2) 会員・サポーターを募り、市民の輪を拡大します。
- (3) 活動への共感や参加を求めるためにニュースの発行やインターネットなどの活用による情報の交換を進めます。
- (4) 緑の党 Greens Japan や全国各地の緑の組織との連携を強化します。
- (5) 緑の政治をめざすため、議会と行政に働きかけます。
- (6) 地方議員選挙、首長選挙、国政選挙に取り組みます。
- (7) その他活動に必要な事業に取り組みます。

(会員)

第4条 目的に賛同し、千葉県内に在住・在勤する市民は、会費（年 3,000 円）を納め、会員とすることができます。会員は、意見の表明や課題等について発議をすることができます。

(サポーター)

第5条 目的に共感し応援しようとする人は、年 1,000 円を納め、サポーターになることができます。サポーターには、情報の提供及び各種会議でのオブザーバー参加ができます。

(会議)

第6条 この組織の会議として、総会と運営委員会を設け、各会議は次の各号に示す理念に基づき運営します。

- (1) 出席者は自主性と相互信頼をもって会議に臨みます。
- (2) 参加と公開を基本とし、熟議の末の合意形成に努めます。お互いに違いを認め合い、

同意しなかった人達の意見を尊重します。

(総会)

第7条 総会は、会員全員が参加資格を持つ最高決定機関であり、運営委員会が招集します。(1) 年1回、定期総会を開催します。

(2) 臨時総会は、運営委員会が必要と判断した場合と会員の10分の1以上の要求があった場合に開催します。

(3) 総会では、規約の制定・改廃に関する事項、活動報告と活動計画、予算と決算に関する事項、共同代表や運営委員等の承認、選出及び解任に関する事項、その他必要な事項を決定します。

(4) 総会は、会員の委任(委任数は出席者数を超えてはならない)を含む過半数で成立し、議決に関しては、議決参加者の過半数を持って決定します。規約は、総会出席者の3分の2以上の決議を持って制定し、改正し、または廃止することができます。

(運営委員会)

第8条 日常活動の推進のために運営委員会を置きます。

(1) 運営委員会は、ジェンダーの視点を配慮して共同代表(2名)と運営委員(各地域のグループ代表等15名程度)によって構成します。

(2) 共同代表、運営委員は、総会で選出します。

(3) 運営委員会は毎月開催し、過半数の出席を持って成立します。

(4) 運営委員会内に運営委員長、副委員長を若干名選出し、運営委員会の活動の実務に責任を持ちます。運営委員長のもとに事務局を置き、庶務・会計などの運営に必要な実務を遂行します。

(5) 討議事項、決定事項は委員会開催後速やかに、メールまたはファックスにて会員に報告します。

(6) 任期は1年として、再任は妨げません。

(監査)

第9条 運営委員以外の会員から、会の財産及び会計を監査する監査を2名、総会で選出します。監査の任期は1年として、再任を妨げません。

(事務所)

第10条 この組織の事務所を、千葉県内に置きます。

(附則)

第11条 この規約は、2012年10月27日から施行します。

グリーンズ千葉 活動方針

グリーンズ千葉前史

「グリーンズ千葉」(仮称)の発足にあたって、これまでの取り組みを略記します。

- ① 中村敦夫さん(参議院議員)が呼びかけた「みどりの会議」による2004年参院選挑戦(比例区10名擁立)の惜敗によって、「みどりの会議」の解散と「みどりのテーブル」が発足しました。
- ② 2007年3月、千葉県内で「みどり千葉」が結成され、「緑の党」の結成をめざす活動がスタートしました。
- ③ 2008年、「みどりのテーブル」と地方議員中心の「虹と緑の500人リスト」運動が合流し、「みどりの未来」が誕生しました。
- ④ 2012年2月、「みどりの未来」第4回総会を受けて、7月末「緑の党」結成への動きが加速されました。千葉では、4月末に「緑の党結成準備会議・千葉」が発足しました。
- ⑤ 5月～6月、「緑の党」結成議案(たたき台)の検討会、7月に松戸市と市川市で「日本でも『緑の党』をつくろう!」のイベントを開催し、初めて出会う市民が会員・サポーターになっていただきました。
- ⑥ 7月末、「みどり千葉」は、7月28日結成の「緑の党」に合流する形で、6年余の活動を踏まえて発展的解散をしました。
- ⑦ 7月28日、世界にあって、日本にない「緑の党」の結成総会、緑の党 Greens Japan と命名され、「緑の政治」をめざす活動がスタートしました。
- ⑧ 8月11日、船橋市で「緑の党結成報告会」を開催し、これから千葉で結成する地域組織について、関心を持つ市民たちと論議をおこないました。
- ⑨ 「緑の党結成準備会議・千葉」世話人会で、千葉における「グリーンズ千葉」結成に向けた規約案、活動方針案、予算案等々を検討し、結成総会(10月27日)に向けて提案をさせていただきました。

グリーンズ千葉 活動方針

千葉県は、人口619万余、「千葉都民」といわれる東京のベットタウンを抱えながら、東京湾、太平洋に囲まれた温暖な地域であり、農業と漁業などの第一次産業の役割が大きな自治体です。脱原発・再生可能な自然エネルギー政策を通じた持続可能な社会への転換をめざすことが可能な地域です。

ところが、千葉県や議会は、これまでの原発依存、第一次産業の切り捨て、経済成長だけを追い求める施策を追求してきました。

3・11以降、県内でも西北地域で放射能汚染による「ホットスポット」が生まれ、人口減少が進んでいます。特に、子育て世代の「子どもの健康被害」に対する危機意識は大変な状況です。

このような諸状況を踏まえて、この千葉県で放射能汚染対策、脱原発・再生可能な自然エネルギー政策の転換をはじめとした持続可能な社会への政策実現・緑の政治をめざすことが大変重要なことだと考えます。

そのために私たちは、千葉県内で緑の政治（グローバルグリーンズ憲章の6つの理念 ①エコロジカルな知恵、②社会的公正/正義、③参加民主主義、④非暴力・平和、⑤持続可能性、⑥多様性の尊重）を実現するためにグリーンズ千葉の組織を立ち上げ、会員・サポーターの自主性と相互信頼に基づき、積極的な活動を進めます。

1. 緑の政治を拡大するための活動を推進します。

- (1) 脱原発・エネルギー政策転換のための市民運動を拡大強化します。
- (2) 緑の党の「緑の社会ビジョン」や「基本政策」を具体化した取り組みを推進します。
- (3) 緑の政治をめざすため、提言・請願・陳情・各種調査など議会と行政に積極的に働きかけます。
- (4) 県内の自治体選挙で緑の政治と理念を同じくする議員候補・首長候補を応援します。
- (5) 国政選挙では、緑の党 Greens Japan と力を合わせて準備し、議席獲得のために努力します。

2. 「グリーンズ千葉」の組織を拡大するための活動を推進します。

- (1) 緑の党 Greens Japan の活動と連携した取り組みを強化します。
- (2) 全国各地の緑の組織との連携を図ります。
- (3) 緑の政治を広げるための講演会・学習会・ワークショップ・グリーンズカフェなどを企画します。
- (4) 緑の政治を広げるために街頭宣伝をします。
- (5) 広報活動と情報・意見交換等のためインターネットの活用を進めます。
- (6) 活動報告と宣伝活動のためニュースを発行します。

グリーンズ千葉 予算

<収入>

| 項目 | 予算額 | 摘要 |
|--------|----------|-------------|
| 会費 | 210,000円 | 3000円 x 70名 |
| サポーター費 | 30,000円 | 1000円 x 30名 |
| 寄付 | 50,000円 | |
| 物販販売 | 10,000円 | |
| 合計 | 300,000円 | |

<支出>

| 項目 | 予算額 | 摘要 |
|-----|----------|------------------|
| 印刷費 | 50,000円 | ニュース作成 年4回 チラシ作成 |
| 郵送費 | 70,000円 | 年4回ニュース発行時等 |
| 会場費 | 20,000円 | 学習会・ワークショップ等 |
| 学習費 | 70,000円 | 講師代等 |
| 資料費 | 60,000円 | 『緑でいこう』年6回購入費等 |
| 事務費 | 10,000円 | |
| 予備費 | 20,000円 | |
| 合計 | 300,000円 | |

役員

<共同代表>

会津もと子さん（成田市） 浅川博之さん（市川市）

<運営委員（15名程度）>

| | |
|-------------|-------------|
| 皆川純麿（野田市） | 三ツ橋トキ子（野田市） |
| 磯野よう子（流山市） | 山田 武（柏市） |
| 田口房雄（柏市） | 柘植扶佐子（松戸市） |
| 武笠紀子（松戸市） | 吉野信次（松戸市） |
| 石田靖彦（浦安市） | 藤森弘（船橋市） |
| 齋藤健太（八千代市） | 中山 茂（成田市） |
| 真木彩子（大網白里町） | 田中正治（鴨川市） |

※女性5名、男性9名の提案ですが、ジェンダーの視点から女性の参加を呼びかけます。

<監査2名>

山崎美佐子（松戸市）
小西正人（松戸市）

<資料> 緑の党

緑の社会ビジョン

私たちは、石油と原子力に象徴されるエネルギー大量消費型の文明に、踊り、踊らされてきました。かけがえのない太陽と地球の贈り物によってこそ“いのち”が育ち、輝くことを忘れ去り、おカネで計れるものだけを尊ぶような勘違いを続けてきました。

その結果、豊かな森・川・大地・海は破壊され、自然は悲鳴をあげています。わずか「1%」の人びとが世界の富を独占し、残りを「99%」の人びとが奪い合うという歪んだ経済成長の仕組みによって、至るところで格差が広がりました。勝ち負けを問わず、人びとは不安と閉塞感のなかにいます。

そこに起きた“3.11”。

私たちは多くのものを失って、やっと気づきはじめました。経済成長神話こそが破滅への道であり、経済成長を優先する政治・行政・福祉・医療・教育などすべてのシステムが破たんしていることを。プロの政治家・官僚・専門家に重要な決定を預けてしまう「おまかせ民主主義」が、最悪の事態を招いていることを。

いま、私たちは、経済成長優先主義から抜け出し、“いのち”を重んじ自然と共生する循環型の経済を創りだします。「おまかせ民主主義」にサヨナラし、市民が自ら決定し行動する民主主義、討議し政治に参加する民主主義を実践します。そして、原発のない社会、エコロジカルで持続可能な、公正で平等な、多様性のある社会、平和な世界をめざします。

◆いのちと放射能は共存できない！“地産・地消”の再生エネルギーで暮らす

原発のない社会を実現します。放射能に汚染された大地や海を次世代に手渡すことはできません。すべての原発を直ちに廃炉にします。

同時に、石油に全面的に依存した暮らし方から脱け出します。「日本は資源のない国」ではありません。太陽・風・水・森林などの豊かで多様な自然資源を生かしたエネルギーを開発・普及させ、基本的に地域で“地産・地消”(自給)することをめざします。エネルギー消費量を思い切って減らしながら、再生可能な自然エネルギー100%の社会に転換します。

◆自然の循環と多様性のなかに暮らしを置きなおす

自然を征服と操作の対象としてきた近代の文明的枠組みからの大転換をめざします。

欲望を無限に膨らませ便利さを追い求めて限りある資源を大量に消費する暮らし方から脱け出します。クルマをはじめ温室効果ガスを大量に排出し気候変動を促進するモノの使用と生産を思い切って減らします。

自然征服型の事業は中止します。自然生態系の循環と生物多様性を保全し、これを生かした

風景を取り戻す事業を進めます。

生態系と人間の健康に取り返しのできない害を与える可能性のある科学技術は、「予防原則」に立って封印します。

◆競争とサヨナラし、スロー・スモール・シンプルで豊かに生きる

経済と暮らし方をスローダウンし、おカネ(GDP)だけでは計れない豊かさや富を手に入れません。弱肉強食の競争によって効率性だけを追求し利益を最大化する経済から、分かち合いと協力・連帯によって人間らしい生活を営める経済に転換します。

より少なく働き、より少なく消費し、より豊かに生きる社会に向かいます。労働時間を大幅に短縮し、仕事を分かち合って失業を減らすと同時に、自由に使える時間を飛躍的に増やします。働き方も変え、尊厳ある働き方と多様な働き方を実現します。

再生可能エネルギー、農業、介護・医療・教育の分野で仕事と投資を増やします。モノとサービスと資金が地域内で循環し、働く場が創られるローカルな経済が主役となります。「土はいのちの源」という原点に立つ農業を再生します。

国境を越えるマネーの膨脹と暴走を規制し、不安定さを増すグローバル経済によって暮らしが脅かされることを防ぎます。

◆格差と貧困をなくし、分かち合いを実現する

誰もが不安と孤立と貧困から脱け出し、自分の「居場所」を見つけられることが重要です。若者や社会的弱者に「自己責任」を押しつけず、政府や地方自治体による公的支援を拡充すると同時に、市民やコミュニティによる助け合いを活発にします。

すべての人に人間らしい生活を営める生存権を保障するために、ベーシックインカムを導入をめざします。誰もがいつでもどこでも安心して医療・子育て支援を受けられるようにします。子どもの教育や住まいなども公共サービスとして提供します。

公正な税制によって所得の再分配を行ない、格差をなくします。

◆性による差別・抑圧のない平等な社会へ

女性への差別をなくし女性が生きやすくなることは、その社会が誰にとっても自由で生きやすい社会になるためになくてはならない重要な一歩です。私たちは、性別役割分業から解放され、個人を単位とする社会を実現します。すべての人が性別にとらわれず、「自分らしく」生きられることをめざします。

◆子どもと未来を育む

未来の主人公である子どもたちは、どこで生まれて誰に育てられても、誕生・保育・教育・医療などの基本的な環境を保障されます。子どもは、血縁の家族だけではない「家庭」、保育所や学校、地域コミュニティのなかで育ちます。「子どもの権利条約」に謳われている「自分らしく生きる権利」「意見表明権」を実現します。

◆多様で違ったあり方を認め合う

社会は、多様な人々から成り立っています。多様性を認め合う社会こそ、活気と豊かな文化を生み出します。女性・障がい者・性的マイノリティ・外国籍住民・先住民への差別や排除をなくし、すべての人が伸びやかに生きられる社会を創ります。

多民族・多文化共生の「そのまま違っていられる社会」を実現するために、当事者が自分たちに関わる事柄の決定に参加できる権利と仕組みの確立が重要です。

◆熟議と当事者主権にもとづく参加民主主義を実現する

政治は代表を選ぶだけではありません。市民が自由に声を上げ、討議し、行動し、参加して決定する民主主義を実現します。

政治的決定は、できるかぎり人々の生活に近い場で行なわれます。分権を徹底し、住民自治と市民主権を実現します。

情報公開を徹底し、市民が行政を監視し、重要な事柄は住民投票や国民投票によって決定できるようにします。

◆平和と非暴力の北東アジアを創り、戦争や暴力、差別のない国際社会をめざす

貧困と抑圧、暴力や差別、武力紛争や戦争のない社会をめざします。

憲法9条の堅持を国際社会に明言し、武力紛争や人権蹂躪、貧困や差別などを予防・解決するための外交や施策を積極的に展開し、その国際的な枠組み作りを進め、市民、コミュニティ、国家間の信頼や友好関係を発展させます。特に北東アジアでは、地域の非核化をめざすとともに、エネルギーや資源の共同管理と環境保全、歴史認識に関する議論を通して信頼関係と相互理解を深め、市民の交流と協力を基礎にした地域共同体をめざします。

沖縄と日本本土の米軍基地をなくし、徹底的な軍縮を進め、関係各国との友好関係を築き、軍事同盟としての日米安保のすみやかな解消を図ります。